2021/12/06（月）

朝の礼拝

聖書　ルカによる福音書1章26-29節（新約聖書100頁）

六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

“ *Negative Capability* ”

ある大学の先生が「学生は正解か不正解を求めるが、人間の知性にはわからないことをわからないまま認める知性が必要であり、それが大学で学ぶ意味です」と言いました。*Negative Capability*（ネガティブ・ケイパビリティ）と言います。

Capabilityとは「能力・許容」、Negativeとは「否定・消極」という意味です。認める、疑う、憶測がいつも同居している状態です。理解する、納得するというよりも本当なのか、なぜ何だろうかとわからない状態を耐える力、問い続ける力です。

マリアは天使ガブリエルから「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と告げられ、その言葉に戸惑い、一体この挨拶は何のことかと考え込んだとありました。あり得ない、意味もわからない、なぜ、どうしてわたしにという思いです。

当時の結婚は13歳からでした。ほとんど教育も受けず、ナザレという辺境の地の貧しいおとめに、新しい命の誕生、それも救い主の誕生、新しい時代の始まりが告げられたのです。考え込むのも当然です。わからないものはわからなくていいこともあるのです。

しばらく黙祷しましょう。

祈りましょう

真理と光の源である主よ、あなたの言葉こそわたしたちを真理に導くまことの光です。わたしたちはただ主の賜物によってまことの知恵を得ることができます。わたしたちの学びを祝福してともに知識を深め、あなたの真理を悟り、謙遜な心をもってあなたを仰ぎ、喜びと感謝をもってクリスマスを迎えることができるようにしてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン